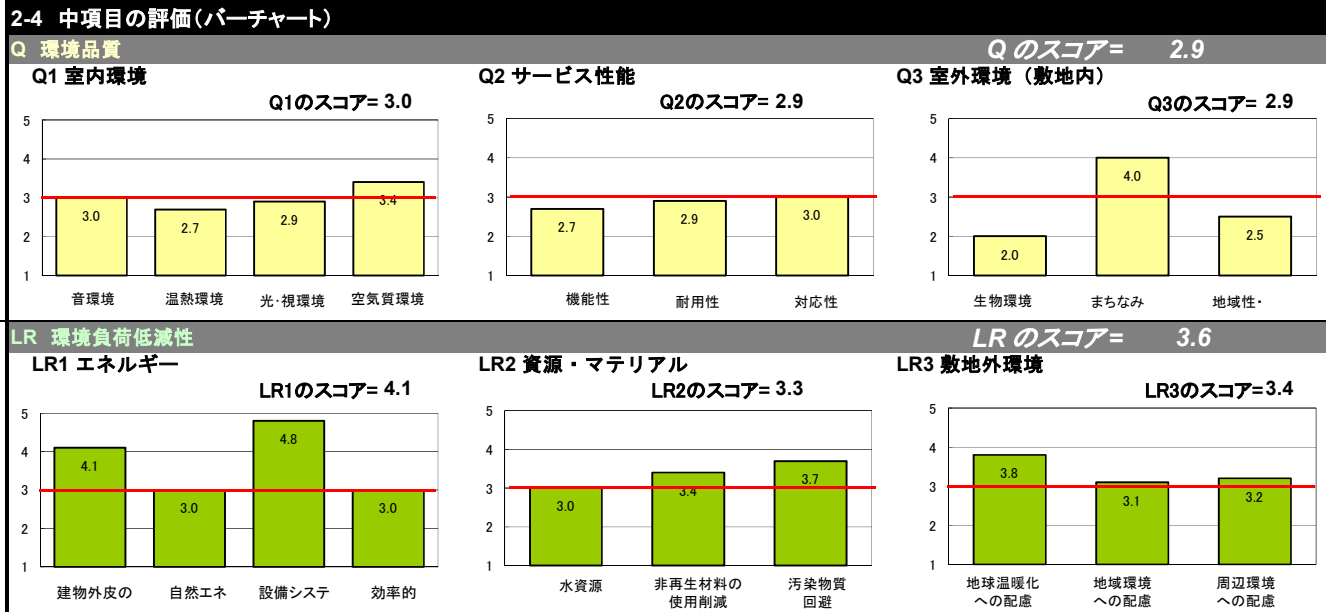
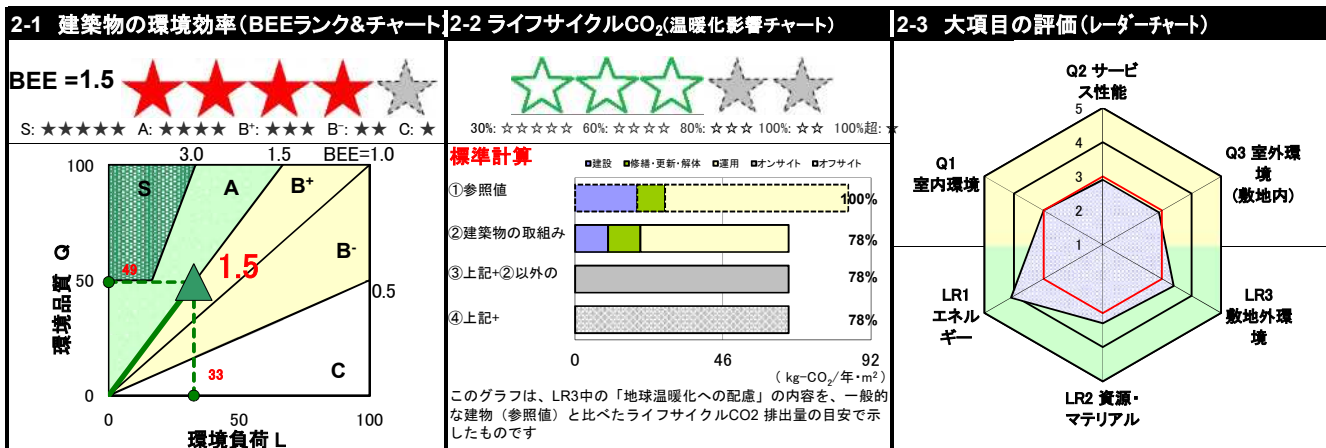


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 23034

建築物名称	(仮称)日本医科大学武蔵小杉地区C街区計画
建築主	三菱地所レジデンス株式会社 プロジェクト開発部長 亀田 正人
建築物の所在地	川崎市中原区小杉町一丁目390番1
設計者氏名、建築士事務所名	岡本 英樹 株式会社フジタ 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	173,836.86㎡
用途	共同住宅、老人ホーム、地域密着型サービス事業所、保育所等、老人福祉センター、地域包括支援センター、診療所(患者の収容施設なし)、スポーツ練習場、物品販売業を営む店舗、飲食店、サービス業を営む店舗、自動車車庫、自転車駐車場
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上50階、地下1階
工事完了予定年月	令和10年9月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)日本医科大学武蔵小杉地区C街区計画	階数	地上50F地下1F
建設地	川崎市中原区小杉町一丁目390番1	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、防火地域	平均居住人員	6,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院,集合住宅,工場,等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年9月 予定	評価の実施日	2023年10月25日
敷地面積	20,173 m ²	作成者	株式会社フジタ
建築面積	9,884 m ²	確認日	2023年11月1日
延床面積	173,837 m ²	確認者	株式会社フジタ

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-川崎2023(v.4.0)

(仮称)日本医科大学武蔵小杉地区O街区計画

23034

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		2.5/4.3	2.9
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.2
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。	1.4/1.9	3.6
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備			
3.2 3.2.1 屋光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		0.9/2.3	2.0
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	非住宅BEIm=1.0以下、住宅BEI=0.85以下	4.1/5.0	4.1
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水型消火栓金具と節水型トイレを採用	3.2/4.7	3.4
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.2
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	空調・給排水配管の更新必要間隔において 主要な用途上位上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	0.3/0.5	3.0
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水型消火栓金具と節水型トイレを採用	2.6/4.0	3.3
2 非再生性資源の使用量削減	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	適切な量の駐車スペースの確保している	0.3/0.4	4.1
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		0.9/2.3	2.0
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	日本の住宅性能基準は「遮熱等5-1の性能水準」の性能評価で4相当です。	4.1/5.0	4.1
2 自然エネルギーの利用	非住宅BEIm=1.0以下、住宅BEI=0.85以下		
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.1**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級3相当	0.1/0.1	4.2
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	日本の住宅性能基準は「遮熱等5-1の性能水準」の性能評価で4相当です。	4.1/5.0	4.1
2 自然エネルギーの利用	非住宅BEIm=1.0以下、住宅BEI=0.85以下		
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
配慮項目		G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル											
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能											
2 界壁遮音性能											
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											
1.3 吸音											
2 温熱環境											
2.1 室温制御											
1 室温											
2 外皮性能											
3 ゾーン別制御性											
2.2 湿度制御											
2.3 空調方式											
3 光・視環境											
3.1 昼光利用											
1 昼光率											
2 方位別開口											
3 昼光利用設備											
3.2 グレア対策											
1 昼光制御											
3.3 照度											
3.4 照明制御											
4 空気質環境											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質											
4.2 換気											
1 換気量											
2 自然換気性能											
3 取り入れ外気への配慮											
4.3 運用管理											
1 CO ₂ の監視											
2 喫煙の制御											
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ											
1 広さ・収納性											
2 高度情報通信設備対応											
3 バリアフリー計画											
1.2 心理性・快適性											
1 広さ感・景観											
2 リフレッシュスペース											
3 内装計画											
1.3 維持管理											
1 維持管理に配慮した設計											
2 維持管理用機能の確保											
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振											
1 耐震性(建物のこわれにくさ)											
2 免震・制震・制振性能											
2.2 部品・部材の耐用年数											
1 躯体材料の耐用年数											
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔											
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔											
4 空調換気ダクトの更新必要間隔											
5 空調・給排水配管の更新必要間隔											
6 主要設備機器の更新必要間隔											
2.4 信頼性											
1 空調・換気設備											
2 給排水・衛生設備											
3 電気設備											
4 機械・配管支持方法											
5 通信・情報設備											

3	対応性・更新性								2.2	0.30	3.6	1.00	3.0
	3.1 空間のゆとり								3.0	0.05	4.2	0.50	
	1 階高のゆとり							物敦学工3.9m以上、病3.7m以上、住3.0m以上	4.8	0.53	5.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ								1.0	0.47	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり								2.0	0.05	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性								2.2	0.90	-	-	
	1 空調配管の更新性								2.2	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性								2.2	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性								2.2	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性								2.2	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性								2.2	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保								2.2	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)								-	0.31	-	-	2.9
1	生物環境の保全と創出	G	W			H			2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	G						高さ形状や色彩について周辺のまちなみや風	4.0	0.40	-	-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮								2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上								3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	G	W			H			2.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性								-	-	-	-	3.6
LR1	エネルギー								-	0.40	-	-	4.1
1	建物外皮の熱負荷抑制		W			H		日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」	4.1	0.20	-	-	4.1
2	自然エネルギー利用		W			H			3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		W			H		非住宅1.0以下、住宅0.85以下	4.8	0.50	-	-	4.8
4	効率的運用								3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価								3.0	0.16	-	-	
	4.1 モニタリング		W			H			3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		W			H			3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価								3.0	0.84	-	-	
	4.1 モニタリング		W			H			3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		W			H			3.0	0.50	-	-	
LR2	資源・マテリアル								-	0.30	-	-	3.3
1	水資源保護		W			R			3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水								3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無								3.0	0.95	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無								3.0	0.05	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減								3.4	0.60	-	-	3.4
	2.1 材料使用量の削減		W			R			2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		W			R			3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W			R			3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W			R		3品目使用	4.6	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		W			R			3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W			R		躯体と仕上げ材が容易に分別可能となってい	4.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避								3.7	0.20	-	-	3.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用								3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避								4.0	0.70	-	-	
	1 消火剤		W						-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		W					ODP=0、GWP=1以下	5.0	0.50	-	-	
	3 冷媒		W						3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境								-	0.30	-	-	3.4
1	地球温暖化への配慮		W					LCCO2排出率78%	3.8	0.33	-	-	3.8
2	地域環境への配慮								3.1	0.33	-	-	3.1
	2.1 大気汚染防止								3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	G	W			H			3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制								3.7	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減					R			3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制					R			3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制					R		適切な量の駐車スペースの確保している	5.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制					R		生ゴミの減容化・減量化に努めディスプレイ	4.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮								3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	-	
	1 騒音								3.0	1.00	-	-	
	2 振動								-	-	-	-	
	3 悪臭								-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制								3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制								3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制								-	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制								3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制								4.4	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策							光害対策ガイドラインの過半項目を満足。広告	5.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	○	○	-	-	○	○	-						
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0		○	○	-	-	-	-	-	○	-		○		-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0		-	-	-	-	○	○	-	-	-	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-						
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-						
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-	-						
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	5.0		-	-	3.0	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	-	-	1.0	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0		-	-	1.0	-	1.0	1.0	-						
3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0		-	1.0	1.0	2.0	-	-	-						
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-									
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-										
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.7		1.0	-	-	-	2.0	-	-	2.0	2.7	-			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	4.0		1.0	1.0	1.0	-		1.0	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC0.5 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム 4.0 屋根 2.0 外壁 2.0 床 2.0 住戸部分システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -
3.1.1 昼光率	昼光率 -----
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口率 3.3%
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース .0㎡/人 病床 .0㎡/床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 30.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 2.5 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数75~90 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 3.28 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 41% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 51% 水平投影面積率 10% 地表面対策面積率 26% 舗装面積率 30%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPIm 0.68 非住宅 0.83 住宅 0.80 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%
3 設備システムの高効率化	BPI/BPIm 非住宅 0.83 住宅 0.80 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品Eビニル床シー エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 0.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(CFC) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(CFC) 0 地球温暖化係数(GWP) 1
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(CFC) 地球温暖化係数(GWP)
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 46% 棟間隔指標Rw 0.11 地表面対策面積率 43.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 #DIV/0! 見付面積Sb 8.618㎡ 越風向と直交する最大敷地幅Ws 105.1 m 基準高さHb 175.67 m 緑地 ##### 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡